

令和6年度 いのちの授業 事例集（小学校）【国語】

掲載数

55

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小4	国語	戦争と平和	国語「一つの花」の学習を通して、はじめは戦争に対するイメージができなかった児童も時代背景を学んでいくことで理解していった。食料不足による配給制、毎日、敵の飛行機が爆弾を落としていくという状況、「一つだけ」が口癖になってしまったゆみ子、あまり丈夫でないお父さんも兵隊として戦地に行かなければいけない状況等を今の自分たちが生きている社会と比べながら読み取っていった。父親から一輪のコスモスの花をわたされる場面では、ゆみ子の喜ぶ姿をみて誰もが笑顔で平和を願う気持ちやいのちの大切さについて考えた。	物語「一つの花」
2 川崎市	小5	国語	「たずねびと」	戦争を題材にした物語を読んで、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることをねらいとして学習に取り組んだ。自分の考えを書くことで、伝えあいながら考えを深め合った。学習を通して友達の意見を聞いて考えが広がった。そして主人公の気持ちを想像することを通して、戦争の悲惨さや平和の尊さ、これから自分自身がどのように生きていくべきかを考えることができた。	
3 相模原市	小1	国語	家族との交流 「ずっと、ずっと、大すきだよ」	家族のように生活している「エルフ」と少年との交流が描かれている物語でした。児童は、中心人物となる「ぼく」と自分自身を重ねて読み進めました。楽しい様子はもちろん、「エルフ」が年老いていき「ぼく」が心配する様子、「エルフ」が死んでしまい悲しむ様子からも、「ぼく」が「エルフ」のことを大好きな様子を読み取りました。	教科書教材
4 相模原市	小3	国語	戦時中の様子と命の尊さ、家族愛	物語教材「ちいちゃんのかげおくり」で、戦争中の様子や主人公の状況や心情などについて学習した。学習を進めていく中で、視覚教材を手助けに、主人公の置かれている状況や気持ちを想像し、読み深めた。学習の最後には、家族との再開が主人公の死によって叶ったこと、家族が揃う有難さなどに気づき、戦争の悲しさ、命の尊さを感じている児童が多くいた。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 戦争関連の動画 (NHK for school) 戦時中の写真
5 相模原市	小3	国語	戦争時の暮らしや子ども	国語「ちいちゃんのかげおくり」を学習と合わせて、戦争の絵本の読み聞かせを行い、戦時中の状況などを学習した。限られた食料や家族と離れ離れになっていく主人公を見て、疑問をもちながら、「小さいのにすごく頑張っている。わたしならどうだろう。」と命を守ろうと頑張る姿にも関心を寄せた。	

6	相模原市	小5	国語	たずねびと	主人公の綾は、たまたま見かけた原爆供養塔納骨名簿に自分と同じ名前が書いてあったことがきっかけで、初めて広島を訪れる。文中では、広島原爆ドームや展示物を見て、戦争の恐ろしさを感じる場面がある。そこで、実際に原爆ドームに行った職員が撮ってきた様々な写真を「怖い人は見なくても良い」という声かけのもと、提示しました。子どもたちは、教科書には載っていないリアルな写真を見て原爆の恐ろしさ、戦争の恐ろしさを感じるとともに、命を大切にしていきたい。戦争は二度と繰り返してはいけないという考えをもつことができました。	光村図書 国語5年教科書
7	相模原市	小5	国語	たずねびと	現代に生きる「綾」が、同じ名前の「アヤ」を広島に探しに行く物語の学習を通して、戦争への理解を深めた。自分たちと同じ年齢の「綾」に寄り添って読みを進めていく中で、綾とともに戦争への理解が深まり、他人事であった戦争が自分事となっていった。自分と同じような子ども達がたくさんの命を失ったこと、原爆で一瞬にして日常を奪われたことを通して、戦争の悲惨さを知るとともに、もっと生きたかったのに生きられなかった人の分も自分たちが元気で幸せに生きなければいけないという思いを持つことができた。	
8	横須賀市	小2	国語	たんぼぼのちえ	たんぼぼの生長していく様子について学習した。普段よく見ているたんぼぼが、種を残していくために様々な工夫をしている様子が分かった。この学習を通して、人間だけでなく、植物にも命があり、その命をつなげていくことの素晴らしさを感じることができた。	
9	横須賀市	小5	国語	平和教育	国語科の『たずねびと』の教材を扱い、戦争がどれだけの悲劇を生んでしまったのか、二度と同じ過ちをしてはいけないと戦争に対する考えを登場人物の心情を通して深めた。また、校外学習では、戦争を経験した語り部さんに実体験を聞く機会を設けた。爆弾がいつ落ちてくるかわからない不安な状況や周りの友だちが少しずついなくなっていく恐ろしい環境だったという実際の話聞いた児童は、自分がいたら乗り越えられなそうと、当時の生活の大変さや生きるために必死だったことを感じ取り、自分なりに考えを深めていた。	教材「たずねびと」 講師は施設の戦争に詳しい方と実際に戦争を経験した方
10	横須賀市	小4	国語	もしもの時にそなえよう	地震、津波、大雨、洪水、感染症や熱中症、そして交通事故など、いつ何時起こるか分からない「もしも」の時。自分や家族、友達の命を守るには、どのような備えが必要か。調べたことを通して自分の考えに理由を添えて文章に表した。 実際の災害を想定し、必要だと思える情報を得たり、家族と話し合ったりすることが大切だと感じる児童が多かった。学校での避難訓練の大切さに気付く児童もいた。 また、すでに社会科で地域の防災についても学んでいるため、今回の学習に結び付けて考えることが出来た。	みんなで防災アクション 命と未来を守る防災 備えのものトリセツ図鑑
11	湘南三浦	小5	国語	平和教育	登場人物の心情を読み取り、原爆や戦争に対する考えを深めた。また、『原爆供養塔納骨名簿』やその他の資料等を活用した。併せて児童が調べ学習をすることにより、原爆の悲惨さについて学んだ。	

12	湘南三浦	小1	国語	どうぶつのあかちゃん	国語「どうぶつのあかちゃん」の学習を踏まえ、ヤギのあかちゃんの生まれ方や、成長の仕方を知り、命の大切さについて学んだ。また、実際にヤギと触れ合うことで、ヤギに親しみを持つことができた。	国語教科書 獣医 ヤギ（4頭）
13	湘南三浦	小2	国語	じゅういのしごと	国語の授業で、「どうぶつ園のじゅうい」を学習したことを踏まえて、改めてじゅういの仕事について話を聞き、いのちを扱う仕事の大変さや、いのちの大切さについて学びを深めた。さらに、実際にヤギと触れ合う経験を通して、いのちの尊さについて考えた。	国語教科書 獣医 ヤギ（4頭）
14	湘南三浦	小3	国語	戦争と平和	3年国語「ちいちゃんのかげおくり」の単元で、登場人物の心情の変化を読み取りながら、戦争の恐ろしさや命の大切さについてじっくりと考えた。	光村図書 国語三下 「ちいちゃんのかげおくり」
15	湘南三浦	小3	国語	平和	過去の出来事である「戦争」と、当たり前と思っている「平和」について、「ちいちゃんのかげおくり」という題材を用いて、主人公と自分を重なり合わせて考えていくことで命を大切に作る心を育む。	ちいちゃんのかげおくり
16	湘南三浦	小4	国語	「一つの花」	物語教材「一つの花」の学習を進める中で、主人公の気持ちに寄り添い、父や母の言動や場面の情景などから、戦争のおそろしさや平和の尊さについて考えることができた。児童の感想からも、命の尊さや戦争の悲惨さなどについて考えを深めている様子が読み取れた。	教科書（光村図書）
17	湘南三浦	小6	国語	海の命	主人公が漁師である父や祖父の生き方考え方に触れながら、村一番の漁師に成長していく姿を描いた物語。 生命の尊重、自然との共生についての考え方について学習した。	国語 「海の命」
18	湘南三浦	小4	国語	命の尊さ・平和	物語教材の「一つの花」を、学習する中で、太平洋戦争について学び、この時代に生きたある家族の物語を通して、命の尊さ、平和の大切さについて考えを深めた。	今西祐行作 一つの花
19	湘南三浦	小5	国語	たずねびと	物語の中で、主人公が同年代の子の被爆者名簿を見て、自分の人生と重ねる場面がある。主人公に子どもが思いを重ね、戦争の悲惨さについて知った。また、自分の置かれている現在の環境が恵まれている中で、自分がどのように生きていくかを考えた。	光村教科書
20	湘南三浦	小5	国語	生命尊重 戦争と平和	主人公が原爆ドームを訪れ、戦争の惨劇を知ることによって心情が変化していく様子を読み取り、考えていくことができた。 日本で戦争があったのは何十年も前のことだが、世界に目を向けると現在も様々な地域で戦争が勃発しており、その犠牲者は小さな子どもからお年寄りまで、罪のない人たちであることに着目し、戦争が起こらない平和な世界になるには人々がどんな意識を持てばよいのか話し合うことができた。	国語 5年【銀河】光村図書 『たずねびと』

21	湘南三浦	小5	国語	戦争教育 『たずねびと』	物語教材『たずねびと』の読解を通して、原爆について扱った。単元の導入では、広島市の地図や被爆者の遺品写真、本物の原爆供養塔納骨名簿を提示し、児童が当時の時代背景を想像できるようにした。戦争を知らない自分たちと同じ世代を生きる主人公の視点で読み進めることで、原爆や戦争がもたらすものの大きさを感じ取った児童が多くいた。また、主人公の心情の変化を丁寧に読み取り、物語の全体像から感じたことを話し合う活動を通して、戦争や平和、命に対する思いや考えを深められるよう学習を進めた。	
22	湘南三浦	小4	国語	もしものときに そなえよう	調べて考えたことを文章に書く学習で、防災をテーマにしたレポート作成を行った。社会科の学習と関連付けながら、自分たちの住んでいる場所ではどのような災害の危険が大きいかや、その災害時に自分の命を守るためには何が必要かをグループで話し合い、個人で意見をまとめた。国内外で過去に起こった大きな災害について知ったり、インターネットなどを使って調べることによって、災害は身近なところでもいつ起こるかわからないということに対して現実味を感じることでできた児童が多かった。自分でできる備えを具体的に考えるきっかけになった。	過去の災害に関しては教師が資料を用意して紹介した。また、児童が保護者から聞いた話や、ニュース等で見て知っていることを紹介し合い、理解を深めた。
23	湘南三浦	小3	国語	ちいちゃんのかげおくり	物語を読み取り、戦時中における「ちいちゃん」の生活と、今の自分の生活とを比べる活動を通して、自分たちが安全に暮らせていることの大切さを考えさせた。その後、当たり前のように今を生きていることの大切さやすばらしさを感じ、いのちを大切にしようとする心情を育てた。	
24	湘南三浦	小5	国語	伝記を読み、自分の生き方について考えよう	東日本大震災の被災地で、やなせたかしの作品であるテーマソングが歌われたエピソードを本人が知って、たかしは心を動かされる。そこから、たかしの人生を遡り、戦時中の空腹感、戦後には正義とは何かなど人生の中から作品を作り出していく。その思いは確実に子どもたちに伝わっていく。震災で傷ついた人々のために全力を尽くし、人々を励まし続け、たかしの生涯は終える。人の生涯を知ること、自分の生き方や行動について振り返る児童の姿がみられた。	やなせたかし アンパンマンの勇気
25	湘南三浦	小4	国語	戦争から考えて	4年生の国語の教科書「一つの花」を題材に命について触れることができた。現在と戦時中の生活の違いを知ること、当時のイメージをもつことができた。特に食の豊かさについては考えさせられるものがあり、食べ物のありがたさに気が付けた児童が多かった。	
26	湘南三浦	小5	国語	戦争から考えて	5年生の国語の教科書「たずねびと」読む中で、実際の「原爆供養塔納骨名簿」をみせるなど実感をもてるようにした。さらに知識から戦争のこわさを知り、人の命の価値について考える機会を作った。中には被爆に関する本や時事の問題にも関心をもつ児童もいた。	

27	湘南三浦	小4	国語	いのちの大切さ	<p>第4学年国語科の「一つの花」の授業では、命の尊さをテーマに子どもたちと向き合った。授業中、子どもたちは真剣に作品に耳を傾け、特に主人公の一生を通じて命の価値を考える機会を得た。「お父さんが十年たっても帰ってこないかわいそうだ。戦争が二度とないようにしたい。」「ゆみこに花を渡したところが悲しかった。もう会えないから。」という感想が出た。この言葉は、子どもたちが作品を通じて命の唯一性とその重みを理解した証拠であると考えた。</p> <p>この授業を通じて、子どもたちは自然や生物に対する思いやりを深め、自分自身の生活や行動に対する意識を高めることができたと思う。</p>	
28	湘南三浦	小5	国語	たずねびと	<p>広島に原爆が落ちたことにより、平和だった町や人々がどうなったのか、「たずねびと」や広島の写真などから知り、現代に生きる我々が二度と戦争の被害に合わないためにはどうしたらよいか、「いのち」のかけがえのなさや主人公の気持ちやおばあさんの言葉から考えたことを話し合ったり書いたりした。</p>	
29	湘南三浦	小4	国語	戦争と平和 命の尊さ	<p>小さな女の子（主人公）が初めて覚えた「一つだけ」という言葉から、戦争によるひもじさや寂しさを感じることができた。最終的に、「たくさんのコスモス」との対比によって、主人公の行動や気持ちの変化を捉え、ひとつしかない命の大切さや尊さなどを学んだ。</p>	教科書題材 「一つの花」
30	湘南三浦	小2	国語	物語を通して動物の生命の尊重に気づかせる	<p>国語の物語教材から、主人公（少年）と飼い馬との交流の様子を読み取り、動物に対する愛情を深めるとともに、自分が飼っている動物などに対しても誠意を持って飼育することの大切さを学んだ。</p>	スーホの白い馬 (光村図書出版)
31	湘南三浦	小3	国語	植物の成長 食べ物と生きる ことの繋がり	<p>国語・総合の授業で、命について学習した。</p> <p>総合的な学習の時間では、大豆の種を見せて、1粒ずつ大豆を観察し、畑に植えた。その大豆の収穫を通して、命の連鎖について学び、食べることで命がつながっていることを学習した。命と食と自然環境が繋がっているということで、国語の単元では、「大豆博士になろう」の学習を通して、様々な食べ物について、それぞれが決めたテーマをもとに調べ学習をした。学年全体で、発表会を行い、普段、身近に食べているものの不思議や、それを作っている人の努力や苦勞、そして、その食物を食べることが自分のエネルギーや命に繋がっていることを理解することができた。</p>	

32	湘南三浦	小2	国語	どうぶつ園のじゅうい	<p>「どうぶつ園のじゅうい」の教材の理解を深めるため、『町の獣医さんの一日の仕事』と題して、お話をしていただいた。実際の写真などの素材を利用し、スライドを作成し、その内容に沿ってお話を展開していただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・獣医さんとしての仕事やその内容、動物園の獣医さんとの相違点 ・獣医さんとして、心がけていること、大切にしていること ・ペットを飼うことの大変さ、昔のペットと今のペットとの違い ・ペットの命を守ることの難しいこと、飼い主とペットの関係 等 <p>治療器具や見本、使用している薬（漢方等）もお持ちいただき、具体物を通して、子どもたちの学習を深めていただいた。質疑応答も適宜行い、子どもの興味関心にお応えいただいた。</p>	茅ヶ崎市小動物アドバイザー
33	湘南三浦	小5	国語	物語の全体像をとらえ、自分の考えをまとめる（戦争題材）	<p>【「たずねびと」】</p> <p>「綾」と自分とを重ね、「綾」とともに「ヒロシマ」に起こった悲劇と向き合いながら物語を読み進めた。講師を招き、画像や動画の紹介をしていただいたり絵本の読み聞かせをしていただくことで、戦争についての理解や、命の尊さ、これからどう生きていくのかを一人ひとりが考えた。</p>	光村図書5年「たずねびと」
34	湘南三浦	小3	国語	「ちいちゃんのかげおくり」	第二次世界大戦時の日本の生活の様子を知り、お話を通して考えた。	光村図書3年「ちいちゃんのかげおくり」
35	湘南三浦	小5	国語	戦争・原爆の使用の再発防止	主人公の綾は戦争を知らない。自分と同性同名のアヤ（戦没者）を駅の構内でポスターで発見することで広島原爆記念館に興味を沸き、訪ねる。そこで記念館を管理している高齢の方と出会い、「アヤちゃんのみまで生きてね」と言われ、生きることや戦争の悲惨さについて考える内容であった。このことから、児童は、戦争の悲惨さと今を生きることの大切さについてもう一度考える機会になった。	光村図書「たずねびと」
36	湘南三浦	小5	国語	たずねびと	広島原爆被害にもとづいた物語教材である。登場人物の心情を想像し、話し合いを進めていく中で、登場人物の心情の変化や戦争の悲惨さや原爆の怖さ、平和の尊さを学習した。	広島平和記念資料館HP 広島原爆死没者追悼平和祈念館HP
37	県央	小5	国語	戦争	登場人物が「原爆供養塔納骨名簿」にあった自分と同じ名前に興味をもつことをきっかけに、戦争について理解を深めていく物語である。登場人物の心情を考える活動だけでなく、平和記念資料館のHPに掲載されている資料をICT機器を活用し、児童に見せた。児童は、驚いた様子だった。自分が想像しているよりも戦争が恐ろしいものだったと感じられたのではないかと考える。戦争の怖さや残酷さを知ることで単元全体を通して、当時の人々の思いを考えながら、真剣に学習に取り組む姿が見られた。学習の振り返りでは、「もう二度と戦争が起きてほしくない」「亡くなった人々の分まで自分の命を大切に生きていきたい」などの意見が多く書かれていた。	光村図書「たずねびと」 広島平和記念資料館HP

38	県央	小3	国語	生命の尊さ	「ちいちゃんのかげおくり」を通して、戦争の悲惨さや命の尊さを学習した。本学習では、物語を読み進めていく中でちいちゃんや家族の気持ちを捉え、情景を具体的に想像しながら考えたり、「命の尊さ」について深く考えたりした。また、戦争を自分事と捉えさせるために「あなたがちいちゃんと同じ立場になったらどんな気持ち?」「戦争をして、良いことがありますか?」という発問をしながら、自分の考えをもたせ、友達と交流させた。その結果、児童から「私がちいちゃんの立場だったら、生きていくことがつらい」や「家族を返してほしい」といった意見や感想が出た。本学習を通して、3年生なりの命の尊さについて考えるきっかけとなったと思う。	光村図書国語(下)より「ちいちゃんのかげおくり」
39	県央	小3	国語	ちいちゃんのかげおくり	物語「ちいちゃんのかげおくり」を通して、物語を読み話し合う中で、戦時中にあったことや、命の大切さについても考えることができた。防空壕や焼夷弾などの言葉に触れるとともに、写真などを見て、どういったものなのかを学ぶことができた。また、遠足で行った「子どもの国」では、戦時中に使われていた「弾薬庫」の史跡を見学し、実際に日本で戦争が行われていたことについて退官することができた。	光村国語教科書3年
40	県央	小3	国語	ちいちゃんのかげおくり	自分たちとは遠くかけ離れた過去の出来事である「戦争」の時代背景の物語をもとにして、当たり前前に思っている家族との生活、未来などの「平和」についてや命の尊さについて考えた。	光村図書・国語3年下「ちいちゃんのかげおくり」
41	県央	小4	国語	一つの花	戦争時代に生きる人々と今の自分たちの生活を比べたり、登場人物の思いを想像したりしながら、戦争の悲惨さや命の大切さについて考えた。	光村図書・国語4年上「一つの花」
42	県央	小5	国語	たずねびと	広島原爆被害にもとづいた物語を通して、登場人物の心情を想像し、戦争の悲惨さや原爆の怖さ、平和や命の尊さについて考えた。	光村図書・国語5年「たずねびと」
43	県央	小6	国語	海の命	主人公を取り巻く人の死や、動物の生と死について深く考えた。生命のつながりを大切にしようとする気持ちを持たせるようにした。	国語の教科書「海の命」
44	県央	小3	国語	ちいちゃんのかげおくり	ちいちゃんのかげおくりを読んで、幸せだった日常から一変したちいちゃんの様子を読み取った。自分よりも小さいちいちゃんや多くの子ども達が、家族のもとを離れて過したり、苦しい中懸命に生きたことを丁寧に読み取った。子ども達の振り返りには、「戦争はとても危ないしこわいしちいちゃんぐらいの幼い子も死んでしまうから、戦争にいいことはない。」「そんなにこわい時代でも、ちいちゃんが生きつづけようと思う気持ちがすごいと思った。」とあり、戦争教材を通して命について考えた。	光村図書国語「ちいちゃんのかげおくり」

45	中	小5	国語	たずねびと	<p>原爆供養塔納骨名簿のポスターに同じ名前の子がいたことをきっかけに主人公が広島まで足を運ぶ。原爆でたくさんの人の命が犠牲になったこと、そこに今も心を寄せる人との出会いなどから、主人公も犠牲になった人々へ思いを寄せていく。読み取りを進めていく中で主人公と同じように「戦争があったことやそのときの人々の思いを忘れないでいることで戦争を繰り返さないことにつながる」と感じた児童が多かった。「平和記念資料館」に行ったばかりの教諭から児童に話をしてもらった。写真等の資料を交えながら話をしてもらうことで、戦争の悲惨さや平和であることの素晴らしさに気付くことができた。また、話を聞くことで、今、5年生の自分が平和のためにできることを考えることができた。</p>	
46	中	小3	国語	すがたをかえる大豆（食育）	<p>大豆で作られている食材は何かを調べ、どのような調理をするとその食材になるのかをワークシートにまとめた。もやしや醤油など、豆の形がない食べ物については、大豆からできていることに驚き、授業後も大豆でできている食べ物は何かを探している様子が見られた。また、そのままの固い大豆、水でつけただけ大豆、炒った大豆の三種類を用意し、においや固さ、重さの違いを班ごとに確かめたりした。調理方法を変えるだけで食べやすさやおいしさが大きく変わってくることに、面白さを感じていた。</p>	
47	中	小3	国語	生命の尊さ	<p>国語教材「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、「生きる幸せ」について考えた。物語文を通して、登場人物の心情や時代背景に目を向けさせながら、当時の人々と現在の自分たちについて比較させ、当時の人々と自分自身の命の大切さについて考えた。子ども同士で考えを伝えあう場面を設け、お互いの意見を共有させるようにし、「命の尊さ」について、理解が深まるようにした。</p>	
48	中	小3	国語	平和の尊さ	<p>中心人物の心の支えとなっていた「家族」「住宅」「遊び」を全て奪っていく切ない戦争体験の様子を場面ごとに読み取ることで、当たり前のように生きている今の状態がいかに平和なのかを児童は読み取り、感じ取っていた。防空壕、出征、爆弾、空襲警報と、中学年が戦争教材を理解するには難しい言葉も多かったため、言葉を補いながら学習を展開すると「読めば読むほど辛くなる。」と感想をもつ児童が増えていった。3年生の児童が戦争について十分に理解することが目的の学習ではないが、戦争が「楽しい場所や楽しい気持ち」を「怖い場所や寂しい気持ち」へと変えてしまうことに気づき、平和について自分なりに考えていた。</p>	
49	県西	小5	国語	たずねびと「物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう」	<p>国語科の「たずねびと」という教材をもとに、戦争や原爆についての知識をもち、内容を読み深めていくとともに、自身の命の大切さについて改めて考えていく形で授業を行った。戦争学習をこれから学んでいく5年生にとっては、初めて知ることたくさんあり、今の生活とはかけ離れた生活に驚くとともに、受け継がれた平和を大切にしたい気持ちや、命の大切さについて考え直す良い機会になった。</p>	国語（光村図書）

50	県西	小5	国語	たずねびと 「命の大切さについて考える」	原爆が実際に及ぼした影響の写真や原爆の被害にあった人のインタビュー動画を学習で用いたことで、戦争を身近なものにとらえ、命の大切さや当たり前の日常のありがたさを感じることができていた。また、学習を進める中で、被害にあった人々の思いや願いを自分たちがどのように後世に伝えることができるかについても考えている児童もいた。	国語「たずねびと」 光村図書
51	県西	小5	国語	戦争や原爆に対する自分の考えをもつ。	中心となる人物が出会う人やもの、経験したことが、物語においてどのような役割をもっているか考えることで、日本で起きた戦争のことや広島に投下された原子爆弾のことを遠い時代のことではなく、自分たちと重ねて考えていく児童もいた。単元の最後に、戦争や原爆についての思いや考えをそれぞれがノートにまとめていった。	広島原爆ドームの実際の様子など
52	県西	小6	国語	命のつながり	本教材は、「死」と「生」、「暗」と「明」を象徴するものとして「五月」のかわせみ、「十二月」のやまなしが書かれている。この二つの世界を対比的に捉えられるように、二枚の幻灯を図で表したり、「+」と「-」カードを配置し情景が比較できるように工夫した。作者が「やまなし」と題名にした意図について考えを深め、死と生はつながりがあること、死はすべての終わりではなく始まりであることに気づくことができた。	国語「やまなし」
53	県西	小3	国語	命の尊さ 家族とのつながり	【「ちいちゃんのかげおくり」】 ちいちゃんの家族への思い、また一人で生き抜こうとした姿について、命の大切さに触れながら考えた。	
54	県西	小3	国語	ちいちゃんのかげおくり	「かげおくり」という遊びを題材に書かれた戦争作品である。児童にとって「戦争」は馴染みがなく、当時の状況を理解することは難しい。そこで当時の町や暮らしの様子が分かる写真を提示した。今とは違う状況で驚いている様子だった。また、叙述をもとに登場人物の心情を考えていくことで「戦争の怖さ」や「生命が失われてしまう悲しさ」だけでなく、「必死に生きようとしていた気持ち」や「生命があるからこそその幸せ」を児童は感じていた。	光村図書 小学校国語三年上 「ちいちゃんのかげおくり」
55	県西	小1	国語	いのちを見つめて	単元の始めに「寿命について」の話をした。犬と人間の寿命の違いについて考え、一緒に大きくなった犬が「ずっと早く大きくなる」ことについて考えると「先に死ぬから飼いたくない」「かなしい」などの意見が出た。そこから、人間も犬も寿命があり、限られた寿命の中でできることは何かを話し合った。話し合いが深まる中で、「周りの人や動物を大切にしたい。」という結論になり、「今できることをがんばりたい。」という意見が出た。	光村図書 1年下 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」